

平成 25 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 25 年 4 月 25 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス(農業生産における天気予報の利用について)	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや早**、発生量は**やや少**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。開花始めから開花盛期に予防散布してください。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病(中晩柑)、ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されます。かいよう病(中晩柑)では、越冬病斑が見られる場合は天候に注意し、予防防除に努めてください。ミカンハダニは圃場での発生状況をよく観察し、多発圃場では適切に防除してください。そうか病、かいよう病(温州)の発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されます。天候に注意し、適期防除に努めてください。赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、チャノコカクモンハマキの発生量は**多**、クワシロカイガラムシの発生量は**やや多**と予想されます。チャノコカクモンハマキは発蛾最盛期の 7~15 日後頃に防除しましょう。クワシロカイガラムシの第 1 世代孵化最盛日は 5 月第 4 半旬~第 5 半旬と予想されますので、樹冠内の中位の枝を中心に薬剤散布しましょう。カンザワハダニ、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニの発生量は**やや多**と予想されます。圃場内をよく観察し、寄生密度が高くないように防除を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月		5月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	やや少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第1号(4月11日発表)。 2) 開花始めから開花盛期に予防散布してください。 3) 開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。出穂および開花状況を把握し、薬剤散布を行ってください。 4) 開花期以降に降雨が続き、気温が高く推移した場合は、第1回散布の7~10日後に追加散布を行ってください。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 県予察圃(御浜町)では、本年の春葉での初発は4月11日(平年4月19日)と早い状況です。 2) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 3) 新葉に病斑が見られる圃場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや多	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 4月6~7日の低気圧通過に伴う風雨により、感染が助長された可能性があります。今後の天候に注意し、さらなる感染を防ぐため、予防散布に努めてください。 2) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。 3) 越冬病斑が多い圃場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、圃場外で処分してください。 4) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	程度		4月	5月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、新梢伸長期に急増することがあるので注意してください。 2) 発生量は圃場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。 3) 成虫が1葉当り0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年の多発傾向により、病原菌の越冬密度は高いと考えられます。 2) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 3) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	普通	ビャクシン類の冬孢子発芽		ナシの発病			<ul style="list-style-type: none"> 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通	成ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ		ナシミドリオオアブラムシ		ワタアブラムシ	ユキヤナギアブラムシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は越冬量が少なく、初夏までの圃場への飛来は少ないと考えられます。 2) 山林に近い圃場や過去に多数飛来があった圃場では、飛来に注意してください。 3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 4) 防除は圃場及び圃場周辺(街灯への夜間飛来など)への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。 			
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 葉裏に生息しているので、ていねいに散布を行ってください。 2) 圃場によっては密度の高い場合があるので、発生に注意しましょう。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連続使用は控えましょう。 4) 天敵への影響の小さい薬剤を選択しましょう。 			
	チャノホソガ	—	やや少	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の裏に産卵します。0.9葉期までに産卵されなければ、摘採期までの巻葉発生はありません。 2) 新芽の裏を観察し、若齢幼虫を確認して防除しましょう。 3) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考して下さい。 			
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。 2) 新芽の伸長と共に発生量が増加します。 3) 有効積算温度による予測式(4月22日現在)では、第1世代成虫発生盛期は5月第4半旬頃です。 4) チャ以外にも果樹類、サクラ、イヌマキなども発生源となるので、これらの植物が付近にある場合は発生に注意しましょう。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	クワシロカイガラムシ	—	やや多	中	普通			第1世代 成虫密度		<ul style="list-style-type: none"> 1) 幼虫の孵化期に防除しましょう。 2) 有効積算温度による発生活消長予測式(四日市市、亀山市、松阪市:4月22日現在)では、第1世代幼虫孵化最盛日は5月15～18日(県予察圃の6年平均5月15日)と予想されます。 3) 専用ノズルを使う等、樹冠内の枝に十分薬剤がかかるように散布しましょう。 4) 天敵保護のため、天敵への影響の小さい薬剤を選択して使いましょう。
	チャノコカクモンハマキ	—	多	中～大	普通	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 幼虫は孵化数日後に葉を2～3枚綴るようになるので、薬液がかかりにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象として防除してください。 2) 発蛾最盛期の7～15日後の幼虫孵化期が防除適期です。例年、第1世代の防除適期は5月中～下旬です。 3) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載しているので参考にして下さい。
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 圃場によって発生にばらつきがあります。こまめに圃場を観察し、発生状況を確認してください。 2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 薬剤散布の際は、収穫前日数と総使用回数を守り、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行なってください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(4月19日発表)によると、気温は平年並か低い予想(発生時期+) 2)4月20日現在における有効積算気温(発育零点13.8)は、22.2日度(平年16.8日度)と高(発生時期-) 3)予察灯(4月第1半旬~第4半旬)では、未飛来(平年4月30日初飛来)と平年並(発生時期±) 4)巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率7.8%(平年12.3%)と少、払い落とし虫数0.1頭(平年1.1頭)と少(-) <p>考察: 気象条件を重視して、発生時期はやや早、昨年の巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量はやや少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多く(±)、気温は平年並か低い予想(-)(-) 2)生育予測システムによると、出穂期は平年に比べて1~3日程度遅く、開花期は伊勢平坦地では4月第4週から5月第2週、伊賀地域では5月第1週から第2週の予想(+) 3)一般圃場では、播種時期の遅い圃場において生育の進みが大きく遅れていたが(+),3月以降の高温で進展した模様(-)(±) <p>考察: 一般圃場の出穂期および開花期はやや遅い見込みですが、今後の気象条件を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±) 2)県予察圃(4月中旬)では、新葉での初発日4月11日(平年4月19日)と早、発病率10.5%(平年0%)と多(+) 3)巡回調査圃場(4月第2週)では、全調査圃場において病斑未確認で平年並に少(旧葉発病度平年0.1)(±) 4)一般圃場では、発生量は平年並に少(±) <p>考察: 現状の発生量は、巡回調査結果および一般圃場の状況を重視して平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想(±) 2)4月6~7日に発達した低気圧の影響で強風を伴った降雨があり、感染が拡大した可能性あり(+) 3)県予察圃(中晩柑類4月中旬)では、越冬病斑の発病葉率24.4%(7年平均32.9%)と少の傾向(-) 4)巡回調査圃場(4月第2週)では、温州みかんでは旧葉発病度0.04(平年0.2)と平年並に少(±)、中晩柑類では旧葉発病度0.9(平年2.7)と少(-)、ただし中晩柑類の発生圃場率67%(平年65%)と平年並(±)(-) 5)一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して温州みかんでは平年並、中晩柑類ではやや多)(+) <p>考察: 温州みかんでは平年発生は少なく、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では現状の発生量は平年並と思われ、気象要因および一般圃場の状況を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4 月 19 日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4 月中旬)では、100 葉当り雌成虫寄生頭数は、無防除区 5.6 頭(平年 79.1 頭)と少(-)、慣行防除区 0 頭(平年 0.3 頭)と平年並(±) (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4 月第 2 週)では、発生圃場率 62%(平年 39%)と多、旧葉寄生率 12.5%(平年 7.3%)と多、雌成虫寄生頭数 0.59 頭/葉(平年 0.28 頭/葉)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、一部多発圃場が散見されるが、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われるますが、巡回調査結果から今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4 月 19 日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4 月第 2 週)では、発病葉率 0%(平年 0%)と平年並に少だが、昨年 9 月の発病葉率 2.7%(6 年平均 1.7%)と多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ない状況ですが、昨年多発傾向であったことから病原菌密度は高いと思われ、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4 月 19 日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4 月第 2 週)では、発病葉率 0%(6 年平均 0%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4 月 19 日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4 月第 2 週)では、寄生葉率 0%(6 年平均 0%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(4 月 19 日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4 月第 2 週)では、寄生枝率 0.7%(8 年平均 0.3%)と平年並に少の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、平年並に少で、多くの圃場で寄生は未確認 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(御浜町 4月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 12頭(平年 73.3頭)、ツヤアオカメムシ 37頭(平年 112.3頭)といずれもやや少 (-) 2) 予察灯(畑・松阪市 4月1日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0頭(平年 0頭)、ツヤアオカメムシ 0頭(平年 0.1頭)といずれも平年並 (±) 3) 県予察圃フェロモントラップ(4月9～16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)0頭(平年 4.9頭)と少、中間地(津市白山町二本木)0頭(平年 1.6頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)0頭(平年 0.4頭)と平年並 (-) 4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当り 1.0頭(平年 1.4頭)とやや少、クサギカメムシの越冬量は、1地点当り 2.3頭(平年 47.9頭)と少 (-) 5) 巡回調査圃場(4月第2週)では、カンキツ圃場への飛来は未確認 (±) <p>考察：現状の発生量は少なく、越冬量も少ないことから、今後の圃場への飛来数の予想発生量は少と考えます。</p>
	カンザウハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または低い予想 (±) 2) 県予察圃(4月上旬)では、旧葉寄生葉率 1.0%(平年 6.4%)、寄生頭数 0.06頭/葉(平年 1.05頭/葉)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生葉率 2.3%(平年 5.2%)、寄生頭数 0.15頭/葉(平年 0.31頭/葉)とやや少 (-) 4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察：現状の発生量はやや少と思われ、大きな増加の要因はないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または低い予想 (±) 2) 県予察圃では、萌芽日は4月10日(平年 4月10日)と平年並、初飛来は3月17日(亀山市;9年平均 3月18日)と平年並の傾向。フェロモントラップ誘殺数(3月第5半旬～4月第3半旬)709頭(平年 793.6頭)と平年並 (±) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、新芽への産卵は未確認 (±) 4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または低い予想 (±) 2) 県予察圃(4月第1半旬～第3半旬)では、吸引粘着トラップ捕殺数 54頭(平年 140.4頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、たたき落とし虫数 0.2頭(平年 2.5頭)と少 (-) 4) 一般圃場では、発生量は少 (-) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増加の要因はないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>	

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または低い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌成虫寄生株率 24.7%(平年 15.1%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または低い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(4月第1半旬～第3半旬)では、フェロモントラップ誘殺数 64頭(平年 20.7頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、巻葉数 2.7枚/m²(8年平均 0.1枚/m²)、幼虫数 0.78頭/m²(8年平均 0.03頭/m²)と多の傾向 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月19日発表)によると、気温は平年並または低い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率 19.8%(9年平均 16.1%)と多の傾向、寄生程度 11.8%(9年平均 10.1%)とやや多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

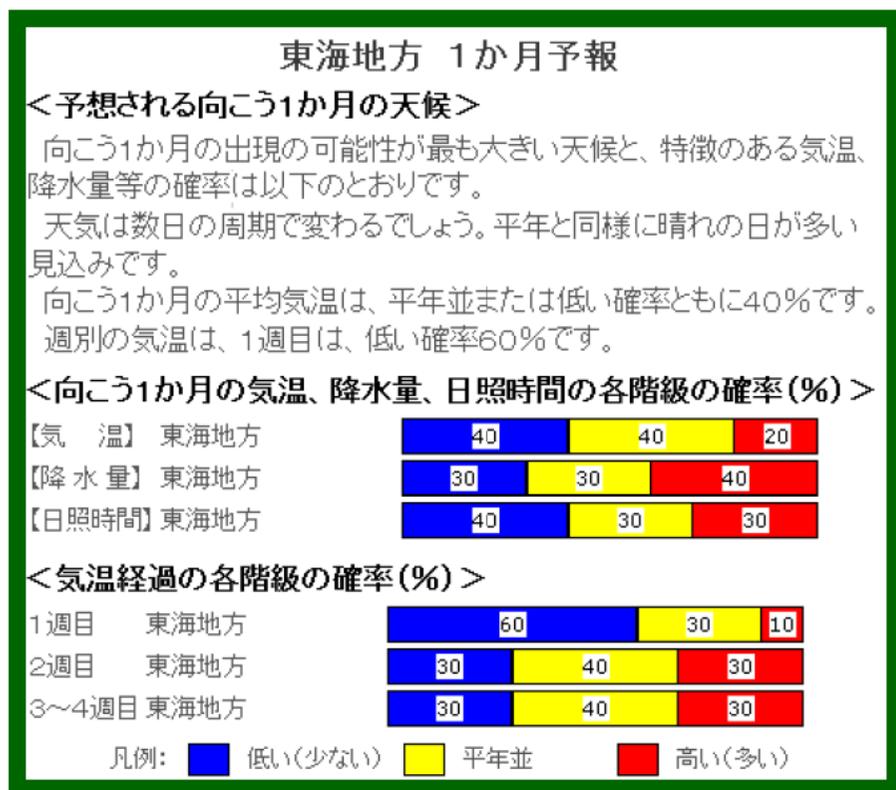
(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「農業生産における天気予報の利用について」

近年、気象の変化が激しくなるに伴い、病虫害の発生も大きく変動し、農業生産に大きな影響を及ぼしつつあります。一方、気象予測技術の発達により、季節予報などの、長期間を対象とした信頼度の高い気象情報が発表されています。今回は1か月予報を例にとり、季節予報の利用について解説します。

◆季節予報とは◆

季節予報には、名古屋地方気象台から発表される1か月予報(毎週金曜更新)や、3か月予報(毎月25日頃更新)などがあり、津地方気象台ホームページで閲覧することができます(アドレス <http://www.jma-net.go.jp/tsu/>)。

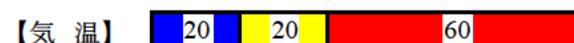


◆1か月予報の利用方法◆

左下の図は1か月予報の例を示したものです。

- (1) 予想される向こう1か月の天候: 1か月間に予想される天候の特徴です。<特に注意を要する事項>が示された場合は、天候の大きな変化に注意してください。
- (2) 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、週ごとの気温経過: 平年値(1981年~2010年の30年間の資料で作成)を基準に、3つの階級「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」に分けて、それぞれの階級が現れる確率で表現されています。
- (3) 病虫害発生予察情報における、1か月予報の表現: 病虫害発生予察情報では、階級の確率表示のうち、10%や60~70%などは統計的に有意性が高いと判断し、次のような表現をしています。

例1: 気温の高い確率が60%であるため、「気温は高い予想」。



例2: 気温の高い確率が10%であるため、「気温は高くない予想」もしくは「気温は平年並または低い予想」。



1か月予報(4月19日発表)によると、向こう1か月の天候は、高気圧と低気圧が交互に通り、天気は数日の周期で変わる予想です。気温は平年並か低い予想です。

季節予報や病虫害発生予報を上手に活用して、今後の作業計画を立てることで、農業生産における気象リスクや、病虫害の発生リスクを軽減しましょう。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 25 年 4 月 19 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧と高気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わります。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。また、1 週目は寒気の影響を受ける時期があるでしょう。

1 週目 4 月 20 日～ 26 日	期間の中頃は高気圧に覆われて晴れますが、はじめと終わりは気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。また、寒気の影響を受ける時期があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・4.3 日
2 週目 4 月 27 日～ 5 月 3 日	高気圧と低気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わります。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 2.1 日・4.2 日
3～4 週目 5 月 4 日～ 17 日	高気圧と低気圧が交互に通リ、天気は数日の周期で変わります。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	同 4.8 日・7.7 日

東海地方週間天気予報 (平成 25 年 4 月 24 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

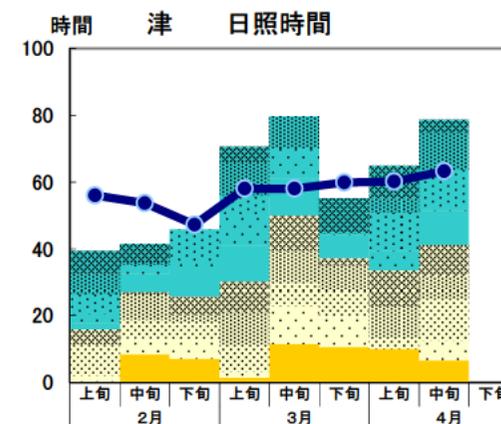
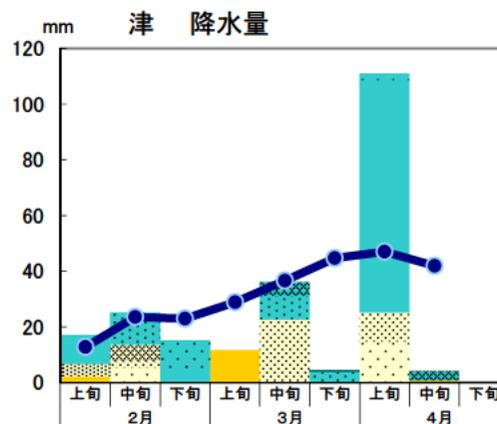
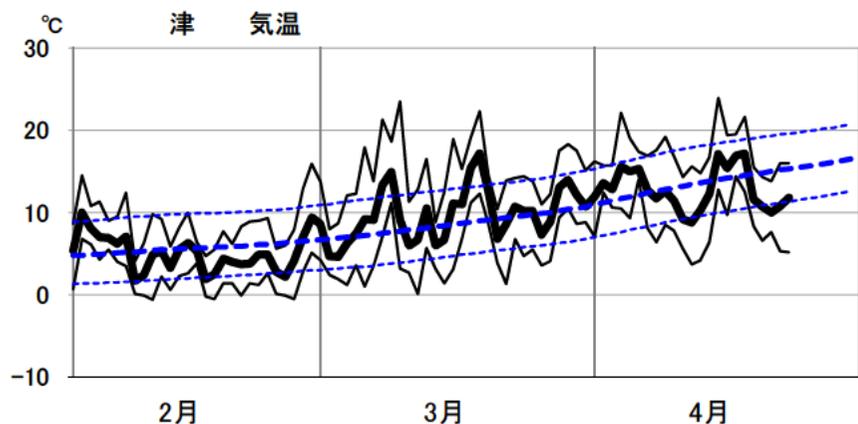
予報期間 3 月 25 日～5 月 1 日

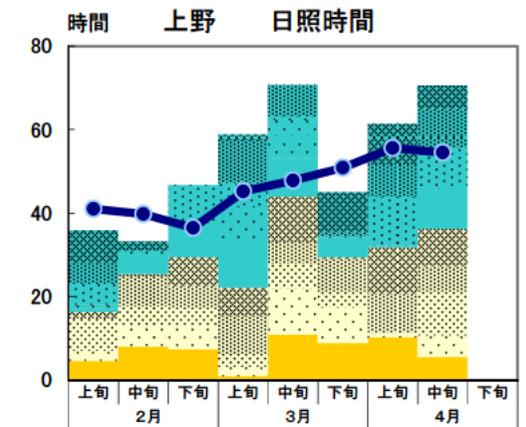
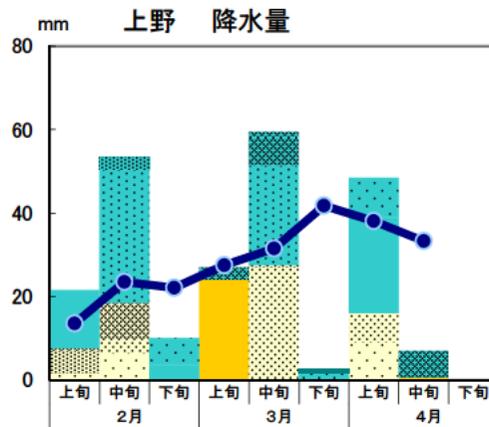
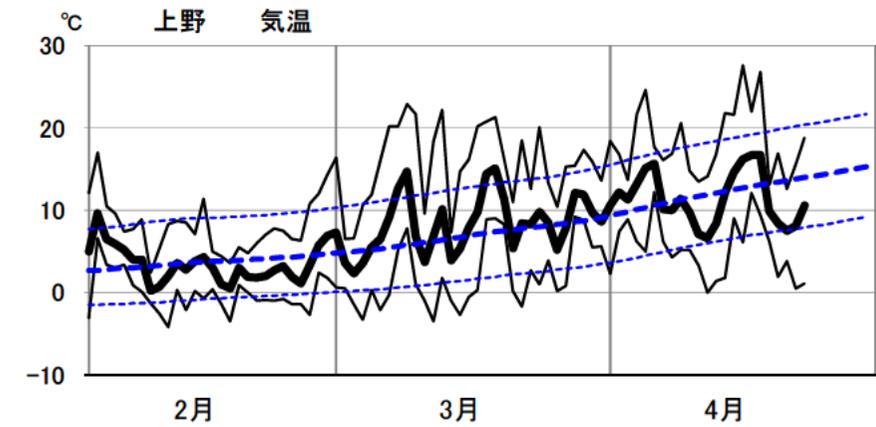
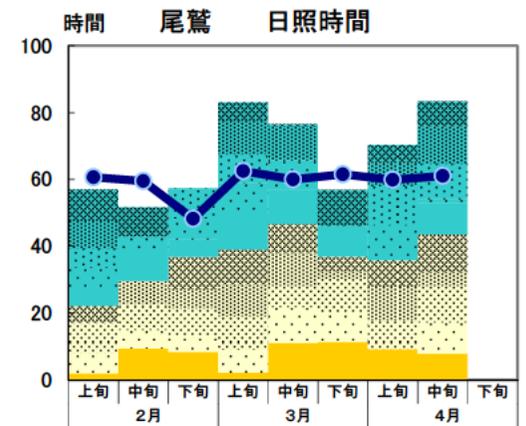
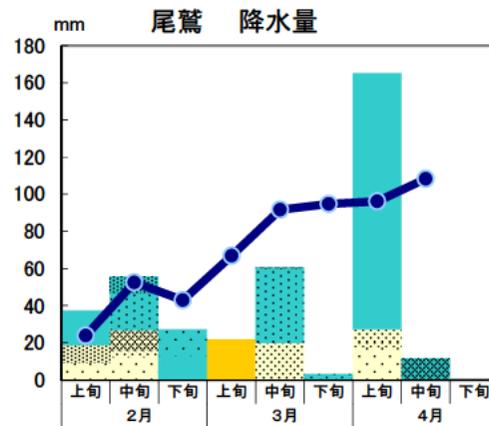
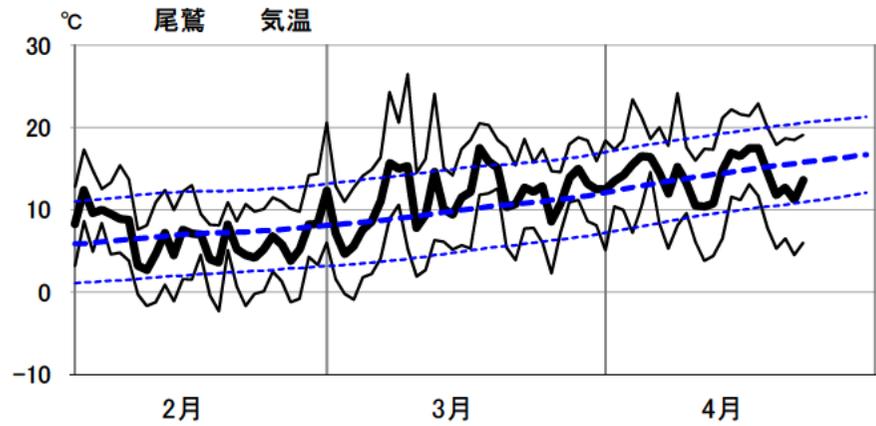
向こう一週間は、期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れますが、後半は気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。

最高気温は、25 日は平年より高いですが、その後は概ね平年並の見込みです。最低気温は、期間の中頃は平年より低く、かなり低い日もありますが、その他は平年並でしょう。

降水量は平年並の見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (4 月 23 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月25日(今回)	第2回 5月23日(木)
第3回 6月20日(木)	第4回 7月25日(木)
第5回 8月29日(木)	第6回 10月24日(木)
第7回 3月20日(木)	

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h25yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm